

茨 木 市

協働のまちづくりは知り合うことから

～茨木市都市計画マスタープラン策定の取組～

はじめに

今、茨木市では都市計画課を中心として、成熟した都市型社会にふさわしい新たな都市計画マスタープランの策定を進めています。策定に当たっては都市計画の枠組みだけでなく、茨木での暮らしを市民自ら考え、様々な主体の活動と連携を通じてまちづくりを進めるとの視点で取り組んでいます。そのためには、市民参加が必要です。

協働と口では言うが…

まちづくりという言葉が使われるようになって久しくなりました。この言葉が何を意味するのかについては、人それぞれ異なった理解をしているかもしれません。ただ、まちづくりの担い手は、市民であるという考えは共通していると思います。

しかし、協働のまちづくり…「言うは易く、行うは難し」です。お題目を唱えたところで、一気に市民参加が実現するというものではありません。これを実現するためには、行政と市民の皆さんが相互に信頼できる関係を築くことが必要だと思えます。

スタートは「顔見知り」になることから

お互いの顔も名前も知らない中で、協働のまちづくりが進むとは考えられません。茨木のまちを良くしたいという想いは、市民の皆さんも市の職員も同じなのに、それがなかなか伝わりません。市民の皆さんと職員、お互いの想いが同じであることを実感できないままではいけません。やはり、同じテーブルについて茨木やまちづくりについて話し合う場をつくらなければならないと考えました。

そこでスタートさせたのが、平成12年から実施している「まちづくり塾」。市民の方から苦情や要求を聞く場になるのではないかとこの心配もありました。しかし、ふたを開けてみれば、「案ずるより産むが易し」。こちらの想いが伝わったのかどうか、まちづくりに前向きな方が集まっていたと、市民の皆さんと都市計画課職員とのつながりが生まれました。もちろん、参加いただいた方々の間にもネットワークが生まれ、新たにまちづくりグループを作られ、見学会や意見交換など独自の活動が続けられています。



まちづくり塾

計画づくりの場で

中心市街地活性化基本計画や都市計画マスタープランは、重要な行政計画です。将来のまちづくり像を明らかにし、その実現に、行政や市民、事業者など、市に関係する主体がともにまちづくりに取り組む時の基本的な考え方を描いていくことは重要で大きな目標です。しかし、計画づくりには、もう一つ忘れてはならない側面があると考えました。それは、まちづくり塾で考えたことと同じように、市民間、市民と職員とのネットワークを生み出す貴重な機会になるということです。そのため、これらの行政計画づくりは、徹底した市民参加で進めています。

中心市街地活性化基本計画の策定プロセスから、

当初、考えてもいなかったものが生まれました。中心市街地を活性化するために、自らでできることは何かということから生まれた、「駐輪場を使いやすくするための、自転車を止める目安となるライン引き」や「市民や商業者が集まる場をつくろう」という動きです。そして、「茨木交流倶楽部」という「場所」と市民の「ネットワーク」ができ、この交流倶楽部を中心に、活性化に向けた様々な取組が進められています。



駐輪場の整理

ええトコ写真

都市計画マスタープランの策定にあたっては、より多くの市民の方に、茨木のまちづくりに関心を持ってもらいたいと考えました。そこで実施しているのが「ええトコ写真募集」です。「古き良き茨木の記憶を呼び起こす」写真（「なつかし写真」）と、市民の方が、茨木の中で「いいな」と感じているところ（「お気に入りスポット」）を、写真で送っていただくというものです。

まちづくりは、茨木の魅力を見つけ、大切にするという気持ちが支えるもの。そのためには、多くの方のまちに対する思いを高めていくことが必要なの



ええトコ写真展



ではないか、という考えではじめました。

これまで（平成18年7月末現在）、お気に入りスポットは約230点、なつかし写真は50点余りが寄せられました。

集まった写真は、本市のホームページで紹介しているほか、多くの市民の方に、茨木の良さや魅力を知っていただきたいと考え、ええトコ写真展を開催しています。茨木市立中央図書館や多くの人が集まる商業施設で開催し、大変な好評を得ています。

おわりに

このような取組を進めている時のベースにあるのは、市民も、職員も「この茨木が好きで、もっと良くしたいと、いつも考えている」ということです。これをお互いに知り、実感しあうことから、協働のまちづくりが始まるのではないかと思います。都市計画マスタープランの策定などで育まれた市民の方とのネットワークをさらに広げながら、茨木のまちづくりを進めていきたいと考えています。